

ひまわり物語

5月の下旬にひまわりの種を蒔きました。

その後すぐに大雨が降ったので種が流れてしまわないかと心配でした。そんな心配をよそにみんな小さな芽をひょっこり出していました。

1ヶ月もすると暑さも手伝って茎もしっかり太くなり背もどんどん伸びてきました。

水やりがとても大変でしたが何往復もして枯らさないように気をつけました。

8月に入るとわたしの背を超えて大きなひまわりが次々に咲き始めて元気な黄色の花びらを沢山つけました。みんな太陽に向かって顔を上げている姿は立派でした。

9月には元気だったひまわりも下を向くようになり種の収穫の時期です。早速鳥に食べられてしまったものもありましたが、たくさんの種が採れました。

これからこのひまわりの種たちが福島で新たな形に変わるのを想像すると楽しみです。



イラスト／田島薫

まどかが「ひまわりプロジェクト」に参加して8年が経ちました。この年月多くの人に関わってきました。まどか利用を終了した人も多くいます。きっとどこにいても見ていてくれると思うと、また来年も育てたいという気持ちが大きくなります。

(多機能ホームまどか／田島 薫)



「新座ひまわりプロジェクト」は、2011年3月11日に東日本を襲った大きな地震、それにより起きた原発事故で福島県内で栽培できなくなったひまわりを全国で栽培、種を収穫して福島に戻すという活動です。全国から集まった種は福島で食用のひまわり油（商品名「みんなの手」）が作られます。そして、収益は復興支援や福島の子どものための保養プログラムに充てられます。